

2022年度 特定非営利活動に係る事業報告書

1 事業の成果

◆里山保全部門

*管理場所グループ

毎月第一、第三日曜日午前中に定例活動を行い、以下のように里山とその周辺の保全に努めました。新型コロナウイルス感染防止対策として、マスク着用や3密回避に努めて定例活動を行いました。

- ・根戸城址 子供部会が主になって城址の管理を行いました。農教室カリキュラムとして落葉の堆肥化。落下した枯れ枝を拾い集積。集積した枝を結束し市の回収へ出しました。一部の枝を薪としてそば祭りや餅つき大会の際に活用しました。遊具の管理、倒木の処理、竹の切り倒し枝払い等。会場内管理は落ち葉の掃除、道具、機器の管理、屋根掃除、薪置場整理。
- ・ミカン山 カイガラムシの防除。剪定。除草。堆肥作り。施肥。全体の除草。倒木処理。栗拾い。収穫したミカンはおみやげ、販売等で活用しました。会員の柳野さんから寄贈されたミカンの木を移植しました。
- ・ハス田 畦と水中の除草。施肥。切り花募金。農教室カリキュラムとして枯れ茎の刈り取り除去しました。
- ・田んぼ 手取り雑草除去。ロータリー掛け。畦の除草。水の管理。ポンプの管理。
- ・その他 第2駐車場の草刈り・整備。トンネル下の管理。新たな管理地となった浅野圃場の柳の伐採等。

*個別活動グループ

1. 里山農教室部会

- ・おおむね順調に推移しました。ソバ祭り・餅つき大会は会員のみでの参加としました。浅野圃場が圃場として追加されソバを中心に栽培しました。
- ・日直リーダー制・3年次生以上（スタッフ）の作物担当制がうまく機能しました。ユーティリティチームがフルに機能しました。
- ・冬越しのタマネギ・ニンニクの栽培も作物担当制がうまく機能し、定着してきました。
- ・定時までにはほとんどの作業を終えることができました。
- ・里山農教室の開講は平均月3回、年間30回でした。
- ・受講者は年度当初で大人部会115名、子ども部会34家族でした。

2. 農教室特別コース

- ・2022年度は、新会員3名が入会し、13名で特別コースを運営しました。
- ・年初に作成した栽培計画書に基づき、各自の圃場で有機生態系栽培を実践し、結果を栽培報告書にまとめ定例会で報告しました。
- ・2022年より城址下奥圃場の一部の管理を任せられ、協働圃場として、じゃがいも、かぼちゃ、枝豆、里芋、人参、大根、アスパラ菜、ケール、茎ブロッコリー、セロリ、大豆を有機栽培し、良品をえびすで販売しました。空豆、えんどう豆、ニンニク、玉ねぎを栽培中です。さらに、休耕地の一部を開拓し、「菌ちゃん畝」の栽培を実践しました。栽培の状況を特別コース便りとして報告しました。
- ・6月のバス研修会は新型コロナウイルスの影響で中止しましたが、特別コース会員で、宮沢さんの農園を訪問し、各種作物の有機栽培技術を習得しました。
- ・11月のそば祭りに合わせて「里芋品評会」を開催しました。優勝：宮平さん、準優勝：矢内さん、三位：松元さんでした。

- ・協働圃場で栽培した里芋、大根、人参を用いて、芋煮会を2回（山形流と福島流）開催しました。また、皆で大豆をみそに加工しました。

3. ハーブ部会

- 3月12日（土） 圃場整備
- 4月9日（土） 圃場整備・定植・播種
- 5月14日（土） 苗定植・ソルゴー播種
- 6月11日（土） にんにく収穫・カモミール染色
- 7月9日（土） 圃場管理・ラベンダースティック販売
- 8月 なし
- 9月10日（土） 圃場管理・バタフライピードリンク作り
- 10月8日（土） にんにく定植・圃場管理・黒にんにく販売
- 11月12日（土） レモングラスリース作り・圃場管理
- 12月10日（土） ハーブ入り入浴剤（調理室）・黒にんにく販売
- 1月14日（土） 化粧水・ハンドクリーム作り（調理室）
- 2月11日（土） にんにく追肥と土寄せ（鶏ふん・馬糞堆肥）

毎月1回の作業日（第2土曜日 13:00～）には、10人前後のメンバーが集まり作業しました。新しい圃場になりましたので、最初は整備に忙しかったです。ハーブ畑の周りにソルゴーで壁を作ったので、ハーブの生育が良くなりました。

4. 竹教室部会

- ・竹教室第4期生は、6名でスタートしましたが2年度では2名が仕事の都合で参加できなくなり4名での活動となりました。コロナの影響下での活動でしたが毎月休むことなく活動できました。なお、来年度は新規部員の募集を中止し、竹教室は部会としての活動を休止することとなりました。

5. 養蜂部会

- ・定例会は11回、チームリーダー会は12回開催し、日本ミツバチ飼育の基本技術の習得に努めました。
- ・チームリーダーとチームを中心とした運営体制により全員参加の活動に努め、リーダーのサポート体制を進展させました。
- ・会員に対し、ハチ蜜・蜜ろうハンドクリームを168ヶ販売しました。
- ・チーム構成員は37名で、ミツバチ越冬群は4群でした。（2023年3月現在）

6. 子ども部会

- ・根戸城址の枯竹の整理、落下した枯れ木を拾い集積し、無煙炭化器で燃やして炭を作りました。
- ・こども畑、こども田んぼで、米、ジャガイモ、スイカ、トウモロコシ、サツマイモ、ニンジン、ひょうたん、藍を育てました。
- ・作物担当を実施し、活動がスムーズにできました。
- ・イベントは、田植え、かかし作り、稲刈りについて企画・運営を行いました。
- ・修了式では、トラスト生き物マップの発表をしました。

7. そば勉強会部会

- ・1月から8月まではコロナ禍で開催しなかったが、そば祭りに備えてそば打ち練習のみを9月から11月の間に6回開催しました。

8. 健康長寿部会

- ・2022年に原さんを中心に当部会を立ち上げ、11名のメンバーが集まりました。

- ・活動方針は「健康に良いとされる作物の栽培」「レシピの考案と効能の紹介」「景観作物として公開」「“えびす”で販売」です。
- ・活動日は毎月第一日曜日教室終了後1～2時間実施、毎回5名以上が出席しました。
- ・昨年度は抗酸化作用がある「パパイヤ」を栽培しましたが、施肥不足と猛暑の影響で収穫には至りませんでした。

9. 小麦部会

- ・昨年10月末より、浅野第3圃場をお借りして、小麦栽培を始めました。圃場面積は、約1,500㎡。
- ・その3分の1に「さとのそら(中力粉)」を、残り3分の2に「ゆめかおり(強力粉)」を栽培しています。11/12の播種から始めて1/15と2/18に2度の麦踏みを行い、3月に入ってからは、肥料散布(鶏糞)、耕運機による肥料攪拌、土寄せを行いました。
- ・ここまで、部員は21名！しかし、小麦栽培は初めての試みでしたので、部員でない方々も快く手伝って下さいました。本当にありがとうございました！そのおかげで、現在、小麦はすくすくとひざ丈ほどに生長してきました。

◆遊休農地活用部門

*遊休農地対応グループ

1. 船戸圃場

- 1) ひまわり栽培(5月～8月)
 - ・5月24日に播種を行い、鳥よけの防鳥糸を設置しましたが、出芽率が悪くイベントが開催できる状態ではありませんでした。そのため6月5日再度播種をおこないました。発芽不良の原因は、播種した種子が前年の残り(未開封)を使用したためと思われます。
 - ・再播種での出芽は順調でしたが、畝間に雑草が繁茂しひまわりの成長に影響がでるような状況でした。農教室および定例活動で大勢の人数で除草作業を行い、大変苦勞をしました。
- 2) ひまわりイベント「ひまわり迷路とクイズに挑戦」を開催
 - ・イベントは3年ぶりでの開催で、当初7月21日～24日でしたが、出芽不良により8月4日～7日に変更しましたが、初日が雨天のため開催期間は8月5日～8日となりました。
 - ・イベント開催期間中の「ひまわり」は満開で入場者は618名、他に写真撮影の人が多数いました。
 - ・イベント会場の東側圃場を「虫取り会場」として整備を行い、子供や親子で虫取りを楽しんでいました。
- 3) ひまわり油
 - ・「ひまわり」の成長はイベント終了まで順調でしたが、開花が終わる頃害虫の「アワダチソウゲンバイ」が急激に繁殖し葉が枯れて、ひまわりの種子が成熟せず、油用に採れた種子は4.4kg(100cc瓶127本)で過去最低数でした。
- 4) 菜の花栽培(10月～3月)
 - ・10月22日、東西に34条播種を行い11月下旬には本葉が5～6枚で順調に生育をしましたが、西側の沼側は欠株が多く、3日間かけて間引き苗を同か所に移植しました。
 - ・1月8日、脇芽を多く育てるため会員を対象とした「花芽の摘み取り」を行い40名が参加しました。
- 5) 菜の花イベント「菜の花畑散策と頭の体操」を開催
 - ・イベントの開催は3年ぶり、当初3月18日～21日の計画でしたが、初日が雨天のため19日～22日の4日間の開催となりました。
 - ・入場者数は大人456名、子供207名、合計663名でした。今までになかった風景は、今年の新一年生がランドセルを背負って菜の花を背景に写真撮影を行っている事でした。

2. 花和下圃場

- ・当圃場は、道路脇の圃場（200 m²）とその西側の圃場（450 m²）の2か所で、景観作物としてヒマワリと菜の花を栽培しました。
 - ・当圃場は、中性化のため、有機石灰を散布し、肥料として発酵鶏糞の散布を行いました。
- 1) ひまわり栽培（5月～8月）
 - ・道路脇圃場は生育も良く大きく花が咲きましたが、生育に従いアワダチソウグンバイが葉の裏面に寄生するようになり葉が黒くなり、生育不良となってヒマワリの種は取れませんでした。一方、西側圃場は畝立てを行い播種しましたが生育が悪く、再度の播種を試みましたが、芽は出ましたが生育はしませんでした。
 - 2) 菜の花栽培（10月～3月）
 - ・道路脇圃場は、生育も良く花が良く咲き、良好でした。
 - ・西側圃場は、雨水による冠水を避けるため、高畝にして播種しました。発芽を心配していたのですが、発芽し生育が進み、花芽が付いてきました。当圃場では、やっと生育し花を咲かせることが出来ました。圃場として使えるようになったのではないかと思います。

3. 浅野圃場

- ・今年度から新たに委託を受けた浅野圃場で景観作物を栽培することになりました。
 - ・第1圃場は周りの圃場に比べて圃場面がやや高いため水はけはいいのですが、土壤有機質が乏しく、痩せた感じの土でした。
 - ・第2圃場も同じく痩せた感じの土でした。地主さんの話によると、第2圃場は以前田んぼだったところへ山土で嵩上げしたため、乾いていると赤茶色に見える土でした。
- 1) ひまわり栽培（4月～8月）
 - ・硬い土壤のロータリー耕耘から始まり、5月中旬の肥料散布、5月下旬のひまわり播種と作業は順調に進みましたが、沼側の一部が発芽しませんでした。地主さんの話によると当初、発芽はしたが、早朝に鳩や鳥に食害されたとのことでした。
 - ・8月に入り花が大きくなってきたころ、葉や茎にグンバイ虫と思われる小さな虫がびっしりと付き、花が成長する前に葉がすっかり枯れてしまい、ひまわり油用の種はほとんど採取出来ませんでした。
 - 2) 菜の花栽培（9月～3月）
 - ・前作のひまわりの茎葉をハンマーナイフモアで粉碎し、トラクターですき込んだ上、馬糞堆肥、発酵鶏糞を散布した後、再度ロータリー耕耘して菜の花を播種しました。
 - ・前作のひまわり栽培に比べ、有機物を多くすき込んだことと、天候に恵まれたせいか、背丈は低いものの3月中旬には一面黄色い絨毯となりました。
 - 3) そば栽培（8月～10月）
 - ・当圃場は、初めて手賀沼トラストが使用することとなり、1,500 m²もあるため景観作物として蕎麦の栽培を行うことになりました。
 - ・当圃場は、発酵鶏糞と馬糞堆肥により肥料散布を行い、雨天の状況を見て8月末に蕎麦の播種を行いました。播種から2週間位後に倒伏防止のため、管理機による土寄せを行いました。
 - ・10月末に刈り取りを行いました。一部分で泥濘化して刈り取りが難しい箇所がありました。
 - ・脱穀は浅野第2圃場の敷地を使用して玄そばを収穫しました。
 - ・天日干しは日暮さんの敷地で行い150kgの玄そばが収穫出来ました。

4. 宮前沼/宮前田圃

- 1) 宮前沼圃場は2021年に東側900 m²の田んぼを造成しましたが、2022年は更に西側のアート圃場2面も改造して合計2,000 m²の田んぼが出来ました。
- 2) 5年前の2017年からスタートしている宮前圃場の8,000 m²の田んぼを合計すると10,000m²(=10反)となり今年も除草剤のみの減農薬で「粒すけ」を栽培し合計172袋=5,160kgを収穫しました。
- 3) 地主の日暮家に20袋、我孫子市フードドライブ他に9袋を寄付、農教室会員に52袋を販売して、残りを分配しました。
- 4) 前年度の千葉県コメ平均収穫量は1,000m²当たり533kgの農水省データと比較すると97%で、専業農家並みの収量にあと一步。2023年は農家を追い越したい。

6. 遊農チーム (GMT65)

- ・農機を扱うことのできる人員が増えました。
- ・登録人数は60人超で、たくさんの方が作業に参加してくれました。トラスト会員以外の方も参加してくれています。
- ・米もヒマワリ油もいつものように現物支給できました。

***新規就農者支援グループ**

- ・新規就農希望者があられませんでした。

◆事務局部門

***交流事業グループ**

当グループは会員相互、並びに一般市民との交流を図る目的で各種イベントを開催するとともに情報交換・情報の共有化を図る活動を展開しました。田植えから稲刈りまでの冬水田んぼでのイベントは、手賀沼流域フォーラムの助成を受けました。また、今年度は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、密にならない工夫を凝らして飲食を伴うイベントを実施しました。コロナ禍における、新たな交流事業の在り方を模索する一年となりました。

- ・5月の田植えには一般の会員や子ども部会の家族など、大勢の参加者が集まり、128名の賑わいを見せました。しかし、今年度も早苗饗については新型コロナウイルスの影響から開催を見合わせました。
- ・7月～8月にかけては「かかし祭り」が行われました。かかし作りには21名の外部参加者がありました。かかし祭りには148名の参加者があり、今年も20体以上のかかしが冬水田んぼに整列しました。
- ・9月の稲刈りでは、子どもから大人まで過去最多となる総勢242名の参加者が集まり、重労働にもかかわらず、素晴らしいチームワークで作業をこなしていました。
- ・11月のそば祭りは、密を避けるために午前・午後の2部制で行い、子ども部会を午前、大人部会を午後に分けて実施しました。そばの試食会場を根戸城址としたため、日暮会場も時間通りにそば打ちを進めることができました。参加者は158名でした。
- ・12月の餅つき大会も、密を避けるために2部制にして1部を子供部会、2部を大人部会に分けました。合計で158名の参加者となりました。
- ・そば祭り、餅つき大会ともに、コロナ禍では2度目の開催となり、従来の方式ではないものの、根戸城址を有効に活用し、トラストらしい楽しく和やかな雰囲気の中でイベントを実施することができました。
- ・2月にはトラストサロンとして、当会会員である松元俊彦さんに「有機生態系農業実践報告～手賀沼トラスト里山農教室特別コース～」と題する講演をしてもらいました。参加者は28名で実践的な野菜作りのアイデアについてなど、活発な意見交換が行われました。

***事務局グループ**

- ・会議運営・記録、会報発行、HPの運営、名簿管理、会計業務（年度予算、月次決算、現金出納業務等）、機械管理等の基礎業務をこなしました。
- ・HP担当者の努力下、HP、メーリングリストが有効に機能しました。
- ・FBも担当者が農教室の記録を配信してくれました。
- ・会計担当者、会計実務者の力で会計実務がスムーズかつ適切に行われました。
- ・市農政課との緊密な連絡、交流をおこないました。
- ・新型コロナ対策に苦慮しましたが、本会からはクラスターを発生させることはありませんでした。

◆総括報告

・年度末（2023年3月末）の正会員数は207名（前年度206名）、賛助会員3名、顧問1名、協力会員（地権者）10名、協力会員（我孫子市民）72名、あわせて293名（前年度291名）の会員となりました。メルマガ会員は200名（前年度190名）に増加しました。

・新型コロナウイルス感染防止対策として、発熱者の参加自粛、マスク着用など措置を講じながら、活動を継続しました。

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従業者の人数	受益対象者の範囲及び人数	
里山保全部門	管理場所グループ	根戸城址部会（定例活動）				
		・根戸城址通り清掃	毎月第1、3日曜日	根戸城址通り	4名	会員（30名）
		・樹林地管理など		根戸城址		
		花ハス部会	定例活動日、随時	ハス田	2名	会員（20名）
		ミカン山部会	定例活動日、随時	ミカン山	2名	会員（20名）
		冬水田圃部会	4月～10月	根戸新田	14名	会員・一般（100名）
		ソバ栽培部会	8月～11月	根戸新田	14名	会員（60名）
	個別活動グループ	養蜂部会	毎月第3土曜日、随時	根戸新田	2名	会員（37名）
		竹教室	毎月第4木曜日	根戸新田	2名	会員（4名）
		里山農教室部会	毎月3回程度 土曜日	根戸新田	19名	会員（149名）
特別コース部会		通年	根戸新田	2名	会員（13名）	
子ども部会		毎月3回程度 土曜日	根戸新田	2名	会員（34名）	
ソバ勉強会部会		9月～11月	けやき調理室	2名	会員（27名）	
ハーブ部会		通年	根戸新田	2名	会員（21名）	
小麦部会		通年	根戸新田	3名	会員（21名）	
	健康長寿部会	通年	根戸新田	2名	会員（11名）	
遊休農地活用部門	遊休農地対応グループ	ひまわり栽培	4月～7月	船戸圃場 花和下圃場 浅野圃場	3名	会員（60名） 一般（618名）
		菜の花栽培	10月～3月	船戸圃場 花和下圃場 浅野圃場	3名	会員（60名） 一般（663名）
		水稻栽培	3月～9月	官前田圃 官前沼田圃	2名	会員（60名）
	新規就農者支援グループ	新規就農者支援	4月～3月	根戸新田	2名	会員・一般（0名）
事務局部門	交流グループ	田植え	5月15日	根戸新田	14名	会員（128名）
		かかし作り	7月9日、23日	日暮会場	10名	会員（149名）・一般（21名）
		かかし祭り（コンテスト）	8月20日	根戸新田	15名	会員（121名）・一般（27名）
		稲刈り	9月10日	根戸新田	30名	会員（149名）・一般（93名）
		トラストサロン	2月25日	けやきプラザ	5名	会員（28名）
	事務局グループ	安全管理委員会	4月24日	けやきプラザ	2名	理事（10名）
		定例理事会（10回開催）	毎月、最終日曜日	けやきプラザ	2名	理事（10名）
		通常総会	6月4日	けやきプラザ	10名	会員（174名）
		会報編集・校正・発送	毎月1日発行	会員自宅ほか	3名	会員・一般（200名）
		ホームページ運用・管理	通年	会員自宅ほか	3名	会員・不特定多数
	フェイスブック運用・管理	通年	会員自宅ほか	2名	会員・不特定多数	